ダムの迫力身近に

東部3施設ツアー

親子連れ 技術の変遷も学ぶ

県東部の三つのダムを巡るツアーが28日あり、参加した24人の親子連れが、国内最古級の施設や現代の技術を生かした施設を訪ね、巨大構造物の迫力を身近に感じた。

ダムを身近に感じてもらおうと、土木技術者でつくる県技術士会が企画。尾原ダム（雲南市木次町平田）と三成ダム（奥出雲町三成）、千本ダム（松江市東忌部町）を訪ねた。

治水や発電、砂防、利水など用途が違い、建築年代も大正、昭和、平成と異なり、技術の変遷を見ることができる。利水目的の千本ダムや付随する浄水設備は100年前の1918年に完成し、現役で稼働する施設としては国内最古級という。

参加者は各ダムで技術士会メンバーらの解説を聞き、写真を撮ったり、堤防に触れたりした。重力式やアーチ式など構造の違いを模型で学ぶ実験では、子どもたちは身を乗り出して様子を見つめた。

出雲市立北陽小学校5年の井戸琥太郎君(11)は「いろんなダムがあって驚いた。楽しく学べた」と話した。（勝部浩文）

100年前に造られた千本ダムを見学する参加者

島根

本社 編集局 TEL0852(32)3320
出雲総局 TEL0853(21)0019
雲南支局 TEL0854(42)0062
安来支局 TEL0854(22)2069
隠岐支局 TEL08512(2)0356
ひらた通信部 TEL0853(27)9941

松江

はぴこ成婚500人目 登録者を知事祝福

県公認の縁結びボランティア「島根はっぴぃこーでぃねぃたー（はぴこ）」が仲を取り持った成婚者が500人に達したのを記念し、松江市殿町の県庁でこのほど、成婚500人目の結婚相談登録者を祝うセレモニーがあった。

はぴこは、県が2015年に開設した結婚を望む男女の支援拠点「しまね縁結びサポートセンター」を窓口に、結婚を希望する独身男女に交際相手の紹介や出会いの場を設定している。

溝口善兵衛知事から祝福を受けたのは、松江市在住の伊藤俊輔さん(30)と侑紀さん(29)。2人は15年冬にはぴこの松浦洋子さん(65)の紹介で出会い、18年5月に結婚した。俊輔さんは「初対面の時に松浦さんが2人の共通の話題を探してくれて助かった」と感謝した。

溝口善兵衛知事（右）から祝福メッセージを受け取る伊藤俊輔さん（左）と侑紀さん（左から2人目）

17年度のはぴこの相談件数は前年度より104件減の1046件。センターへの結婚相談は18年3月現在、男性66人、女性66人となっている。

松江

息災祈り 真夏の墨付け

片江地区

松江市美保関町の片江地区で29日、夏恒例の「墨神事」があり、神酒で溶いた緑墨を頬や額に塗り付け、病息災を祈った。

片江地区では、けとして顔に墨

心を込めて「ほらね、」を歌い上げる松江プラバ少女合唱団の子どもたち

地元の子と"先輩"との共演刺

1986年から活動する松江プラバ少年少女合唱隊（松江市）の隠岐で初めての公演が29日、隠岐の島町西町の隠岐島文化会館であった。同町で昨年結成した隠岐少年

結成以来2回目の公演とでも2曲を披露。さわや響かせた。

同合唱団員の堤彩香さ郷小学校5年＝は「松江たちはきれいな歌声だっ歌えてうれしかった」と く団員の眞上亜梨沙さ も「松江プラバの人たち 方がとても勉強になっ 年以上の歴史を持つプラ の共演に刺激を受けた様